Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

2020年度
地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関する調査報告書

公益財団法人　ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

目次

■地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関する調査

１．「空き家・空き公共施設を活用したサテライト型体験拠点の創設と活性化」に係る調査研究事業　・・・・２

■地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関するパイロット実施

２．「地域人材・食材を活用した青少年の健全育成」に係る調査研究事業　・・・７

３．「海洋センターオンライン化促進」に係る調査研究事業・・・15

■はじめに

Ｂ＆Ｇ財団では、「地域力の活用計画」に基づき、地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用を見出すため、トライアル事業の実施や関係者へのヒアリング、視察等の調査を調査研究事業として行っている。

2020 年度調査研究事業は、「地域力の活用計画」に基づき、

①空き家・空き公共施設を活用したサテライト型体験拠点の創設と活性化に係る事業

②「地域人材・食材を活用した青少年の健全育成」に係る調査研究事業

③「海洋センターオンライン化促進」に係る調査研究事業

の３事業について、調査及びパイロット実施を行った。以下に各調査の詳細を報告する。

地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関する調査

１．空き家・空き公共施設を活用したサテライト型体験拠点の創設と活性化に係る事業

（１）調査目的

空き家や空き公共施設を活用して、B&G 財団と海洋センター所在自治体が連携し、既存海洋センター以外の拠点整備と新たな活動場所の確保を行うことで、これまでの海洋センター事業だけでなく、新たな事業や活動を行い、海洋センター事業の拡大を図るとともに、社会問題の一つにもなっている「空き家」の有効活用を図り、地域課題の解決に向けた一助とする。

（２）背景及び調査仮説

海洋センターは、ほぼすべての施設が建設から20年以上が経っている。過疎化や住環境の変化により機能移転を望む声もある。また、センター事業も、現代社会のニーズの変化により、新たな活動内容へとシフトしつつある。

現在、全国の空き家率は、約13.6%にのぼり、空き家だけでなく、空き公共施設等が増えている傾向にあるとともに、空き家の増加は社会課題の一つとなっている。そこで、「新たな海洋センター的拠点の整備」「空き家の活用」を図り地域活性化の一助とすることはできないかと考える。

① 海洋センター所在自治体は、センター事業の拡大を図るため、新たな拠点の創出を望んでいる

② 特に1類（艇庫やプール）の海洋センター所在自治体は、夏季のみの活動しかできず、夏季以外も財団事業を実施したいと望んでいる。

③ 特に1類（艇庫やプール）の海洋センター所在自治体は、プール及び水辺の活動拠点しかもっておらず、地域コミュニティや屋内運動プログラム、学習支援等の活動拠点の確保を望んでいる。

④ 海洋センター所在自治体は、特に広域合併した自治体等において、海洋センターがない他地域でも財団事業の実施と波及を望んでいる。

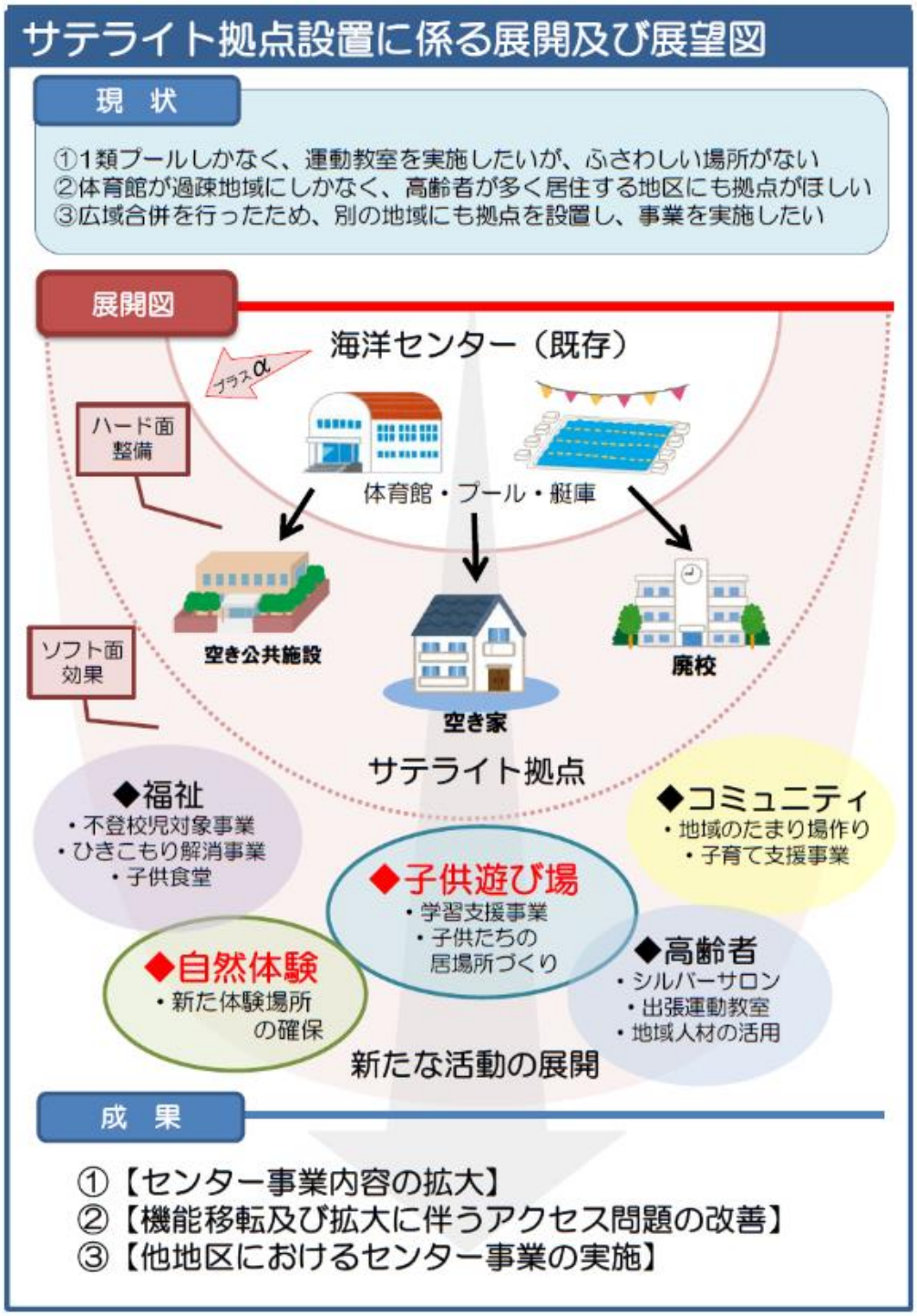
⑤ 海洋センター所在自治体は、既存海洋センターが位置する周辺環境の変化により、他地域への移転を望んでいる。

⑥ 海洋センター所在自治体は、既存海洋センターが位置する周辺環境の過疎化により、センター機能を一部移転し、利用者等のアクセス問題の解決の一助となることを望ん

でいる。

⑦　海洋センター所在自治体は、空き公共施設や空き家などの有休施設の利活用を図り、地域の活性化を図ることを望んでいる。

（３）事業展開案



（4）アンケート調査の実施

①アンケート実施内容

・対 象 者：全海洋センター所在自治体　首長

・実施期間：2021年2月1日～2021年2月28日

・実施内容：自治体へ郵送し、FAXまたは郵送で回答いただく

・回 答 数：296自治体（回答者数：305）

・回 答 率：76%（296／388自治体）

②アンケート結果

設問１

各自治体において、既存海洋センター以外の場所に「サテライト型海洋センター」を設置し、海洋センター事業の拡大や事業内容の多様化、利用者人数の向上等を図りたいと思いますか？

【回答】

①とてもそう思う	②そう思う	③現状を維持	④あまり思わない	⑤全く思わない
13（4%）	41(13%)	78(25%)	159(52%)	17(6%)

設問２

サテライト拠点を開設する際に、どのような形態で拠点整備を進めていきたいですか？

【回答】

①新たに新設	②空き公共施設（主に公民館等）を活用した整備	③廃校を活用した整備	④空き家（民間所有）を活用した整備	⑤その他
4(3%)	52(33%)	41(26%)	33(21%)	26(17%)

設問３

サテライト拠点を開設したい理由を教えて下さい（複数選択可）

①これまでの事業展開に加えて、新たな事業や活動（スポーツ以外の活動など）を実施したい
②海洋センターの立地の関係上、住宅地や市街地に拠点を移し、アクセスの問題を解決したい
③他地域や他地区でも海洋センターの事業を展開したい
④空き公共施設の有効活用を図りたい
⑤民間の空き家の有効活用を図りたい
⑥その他

【回答】

①	②	③	④	⑤	⑥
39(24%)	3(2%)	15(9%)	64(39%)	30(18%)	13(8%)

設問４

サテライト拠点を開設した際に、どのような事業（拠点）を展開したいですか？（複数選択可）

【回答】

①子供向けの居場所づくり	②新たな体験活動拠点（主に自然体験）	③新たな体験活動拠点（自然体験以外）	④高齢者向け事業の実施拠点	⑤貧困対策に係る拠点
52（18%）	34（12%）	31（11%）	38（13%）	4（１%）
⑥テナントや賃貸としての貸し出し	⑦移住者向けの住居整備	⑧子供に向けた学習等の支援を行う拠点	⑨センター事業を絡めた観光施設としての拠点	⑩シェアオフィスやビジネス拠点
16(5%)	16(5%)	29(10 %)	14(5%)	19(7%)
⑪防災や減災に向けた取り組み拠点	⑫子供食堂の実施	⑬その他		
24(8%)	7(2%)	10(3%)		

設問５

サテライト拠点を開設し、事業を実施する場合、どのような点にハードルを感じますか？（複数選択可）

【回答】

①拠点開設に係る改修費等の捻出	②拠点開設後の施設の維持・管理	③事業提供を行う人員の確保	④候補となりえる施設を保有していない	⑤その他
105(32%)	107(33%)	91(28%)	21(6%)	2(1%)

（５）アンケート結果の分析

・設問１より、回答数に対する約20%の自治体が、サテライト拠点の設置を望む、約25%の自治体が、現在の海洋センター施設を利用しての現状維持を望むとの結果となった。また、約半分以上の自治体がサテライト拠点開設の要望は低い結果となった。設問５でもある通り、サテライト拠点の開設や維持管理に対してハードルを感じており、また、事業概要や規模が未知数の段階でのアンケート調査であったため、現時点では検討できないとの意見も複数あったため、事業内容が明確化された際には、「④あまりそう思わない」と回答した自治体からも要望の声は少なからず上がると推測できる。

・設問２より、サテライト拠点を開設する際に、どのような形態で整備していきたいかとの設問については、空き公共施設を活用した整備を望む声が33%あり、一番多かった。しかし、廃校の活用や民間の空き家を活用した拠点整備にも、同等程度の要望はあり、各自治体における有休施設の保有状況、事業展開や立地条件等にも左右されると推測できる。

・設問３及び４より、各自治体におけるサテライト拠点整備に係る「ねらい」として、新たな事業の創出や財団事業の導入等による事業拡大よりも、各自治体で保有している空き公共施設等の有効活用による活性化を推進したいとの意向が強いことが読み取れる。また設問４より、子供の居場所づくりや高齢者向け事業の実施などの要望が多かったが、どの項目もまんべんなく回答があり、各自治体によって求める展開案も異なることから、サテライト拠点整備を進めるにあたり、各自治体の要望に合わせて「汎用性」のある事業構築が必要であると考える。

（６）今後の方針

・2021年度は、調査研究として、各自治体の要望等を吟味しながら、モデル的に実施可能な実施場所の選定を行うとともに、事業構築に必要な情報収集を行う。また、2022年度から本格的に事業の実施ができるよう、サテライト拠点整備後の事業計画の検討を実施予定自治体と協働で作成し、事業展開を図る。

地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関するパイロット実施

２.「地域人材・食材を活用した青少年の健全育成」に係る調査研究事業

（１）調査目的

海洋センター所在自治体において、地域の食材を活用したふるさと教育や高齢者等の地域人材の活用を通じて地域間交流および青少年の健全育成を図ることを目的に、「食」を通じた青少年の健全育成事業の展開を調査研究する。

（２）調査に至る背景・課題

・自らが生まれ育ったふるさとへの愛着や関心が薄れており、郷土愛を育む「ふるさと教育」が重要視されている。

・少子高齢化が進む中で、高齢者等の活躍の場の提供など、生きがいづくりを推進していく必要な状況にある。

・親の多忙化や核家族化によって孤食児童が増加しており、栄養の偏りやコミュニケーション不足など、「食」を通じた子どもの健全育成が課題となっている。

（３）調査仮説

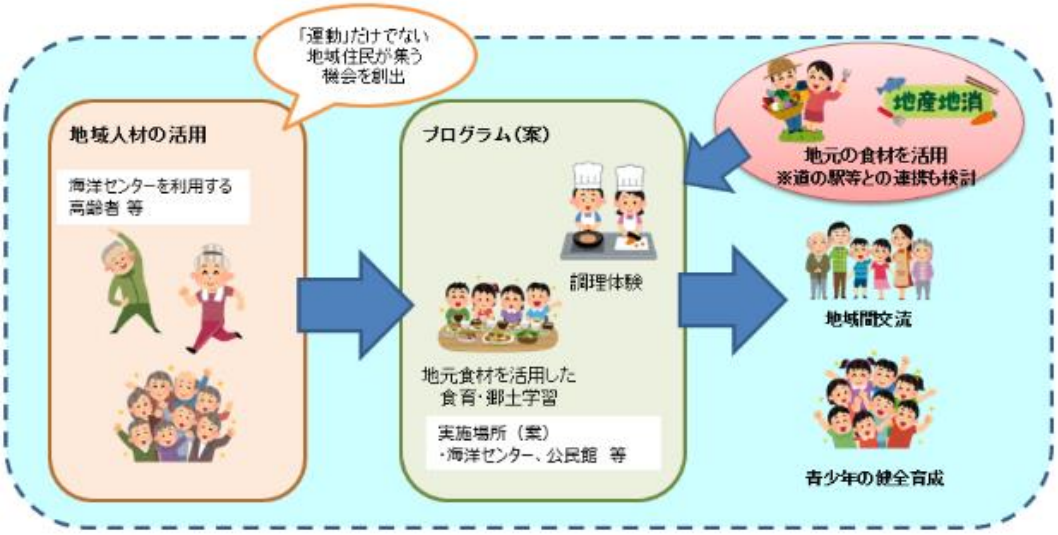
①地域の食材（地域の特色）を活用した「ふるさと教育」を展開することで、子どもたちの郷土愛の醸成に繋がる。

②高齢者等の地域人材がスタッフとして参画することで、生きがいづくりや地域間交流の場を提供することができる

③地域の食材を活用した「食育」を展開することで、「食」を通じた新たな青少年健全育成に繋げることができる

（4）パイロット事業の概要

①事業イメージ図



（5）調査内容

・地域の食材を活用した「食育」プログラムの開催および高齢者等の地域人材が参画した事業運営の検証

・地域人材や食材を活用したプログラムの仕組みや方策等を見出すため、参加者・運営者に対するヒアリングおよびアンケートの徴収

・海洋センターへの展開に向けた課題と対応についての把握　等

（6）パイロット事業の詳細

①長野県上松町

上松町の特産物である「えごま」やその他特産物についての学習、「えごま」を使用した調理体験、食育講座を実施。20 人の小学生が参加した。

a.実施内容

日　程：2021 年 2 月 25 日（木）14:00～15:00

場　所：上松町公民館

参加者：上松町内の小学生 20 人

内　容：上松町の特産物等について（ふるさと教育）、栄養士による食育講座、地域特産物（えごま）を使った料理体験

地域特産物についての学習（ふるさと教育）

えごまを使った料理体験

食育講座

b.担当者、スタッフの感想

・地域食材について学び、実際に調理することで子どもたちもより興味を持って取り組んでいたように思う。

・子どもたちと触れ合いながら、ふるさとの魅力などについて伝えることができ、とても有意義な時間だった。

・郷土食などの文化が少しずつ薄れている時代の中で、地元の方を通じて、それらにふれることで、伝承していくきっかけになり良いと思う。

②岐阜県中津川市

中津川市の特産物や郷土料理についての学習や、地域特産物である「いももち」を活用した調理体験を実施。3 名の小学生が参加した。

a.実施内容

日　程：2021 年 3 月 13 日（土）9:30～11:30

場　所：中津川市加子母公民館

参加者：中津川市内の小学生 3 名

内　容：中津川市の特産物や郷土料理について（ふるさと教育）、地域特産物（いももち）の調理体験

地域特産物についての学習（ふるさと教育）

いももちづくり（郷土料理体験）

b.担当者、スタッフの声

・芋を初めて触ったという子もおり、今回の取組みを通じて新たな経験、知識を得られたと思う。こうした取り組みを継続的にやることが大事なのではないかと思う。

・1 回にまとめて「食育」と「ふるさと学習」を実施したが、できれば複数回実施し、別々に実施できると良いと感じた。継続的に実施する仕組み（スタッフ、場所等）ができれば良い事業になるのではないか。

・プログラムとしてはとても魅力的だが、「ふるさと教育」と「食育」の指導ができる人は限られており、人材を探すのが大変だと感じた。

（7）アンケート結果

【子ども用アンケート結果】

■プログラム効果

①今回のイベントは楽しかったか、満足できるものだったか

回答項目	人数
とても楽しかった	23 人
まあまあ楽しかった	0 人
あまり楽しくなかった	0 人
楽しくなかった	0 人

②「ふるさと学習」を通じて、もっと地元のことを知りたいと思ったか

回答項目	人数
とても知りたくなった	20 人
まあまあ知りたくなった	2 人
少し知りたくなった	0 人
変わらなかった	1 人

③「食育講座」で学んだことを家でも気を付けたいと思うか（上松町のみ）

回答項目	人数
とても思う	18 人
まあまあ思う	1 人
あまり思わない	1 人
思わない	0 人

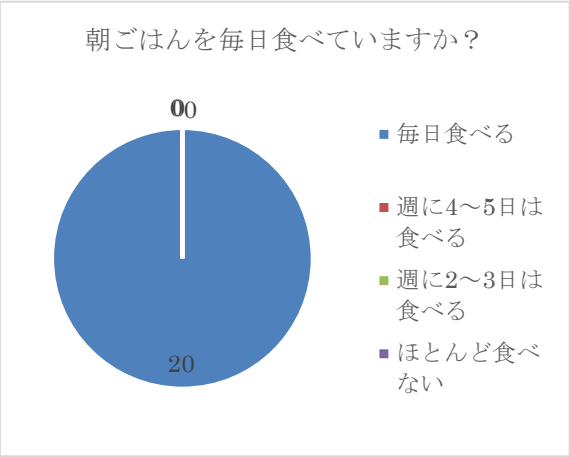
パイロット事業内容についての満足度については、全ての参加者が「とても楽しかった」回答した。その結果、ふるさと教育への興味・関心や食育に対する意識という点でも高い結果となり、事業の効果は高かったと推察される。

■実態調査

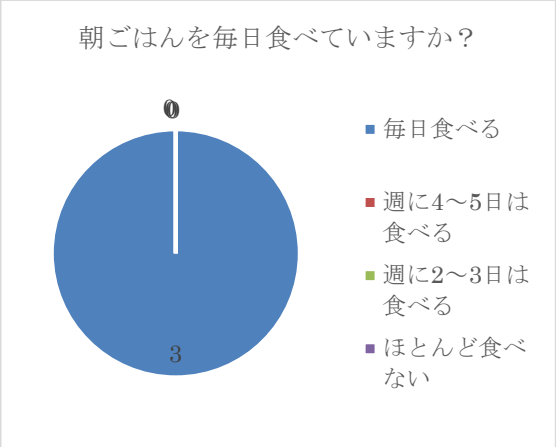
～食生活について～

①朝食は毎日食べているか

○上松町

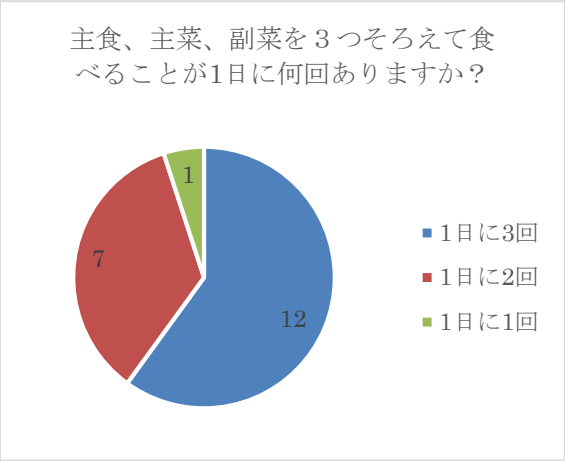


○中津川市

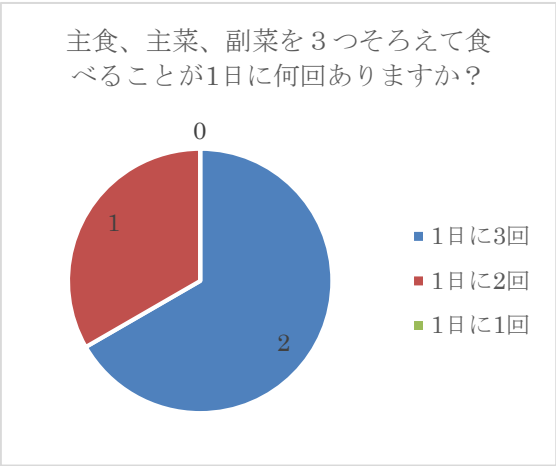


②主食、主菜、副菜を３つそろえて食べることが１日に何回あるか？

○上松町



○中津川市

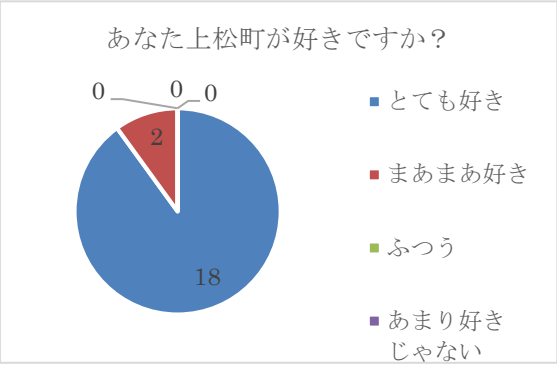


子どもたちの食生活の実態を調査したところ、朝食を毎日食べていない子は１人もいないという結果となった。また、主食、主菜、副菜を揃えて食べている子も多い結果となり、比較的、食事をしっかりと取っている子が多いということがわかった。

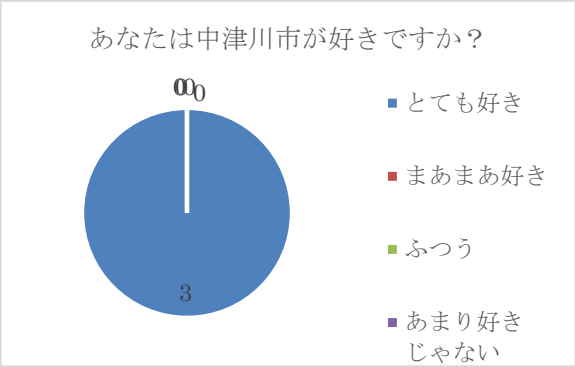
～ふるさとについて～

①自分が住むまちが好きか

○上松町

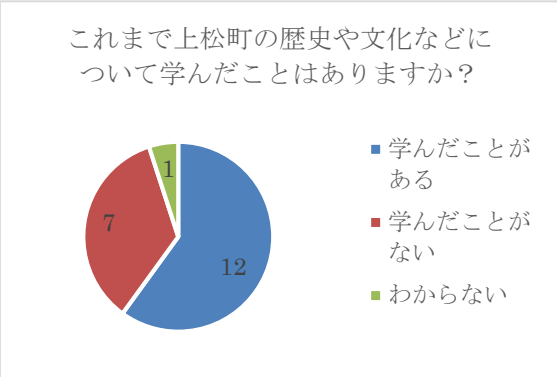


○中津川市

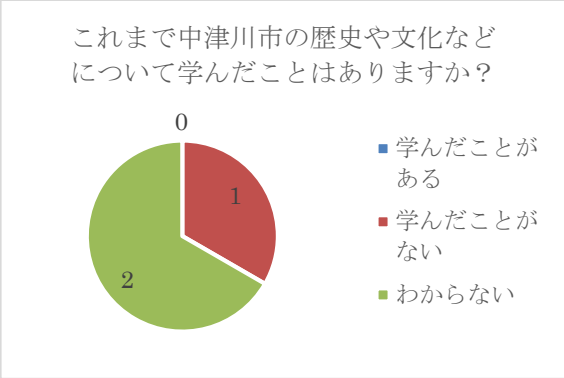


②「ふるさと」について学んだことがあるか

○上松町

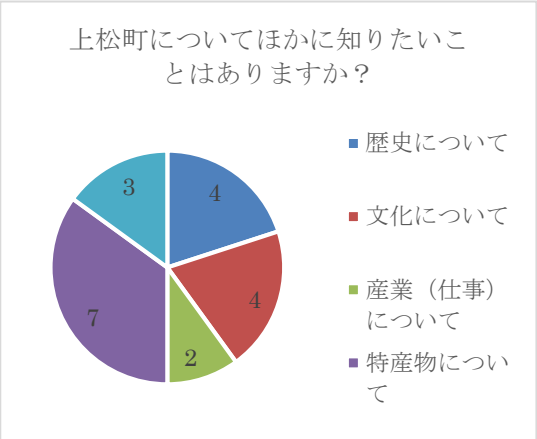


○中津川市

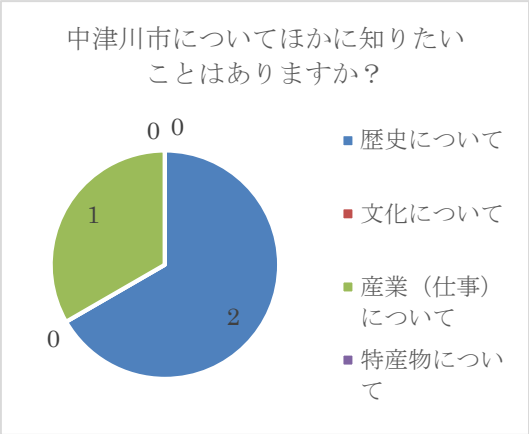


③「ふるさと」について学びたいことは何か

○上松町



○中津川市

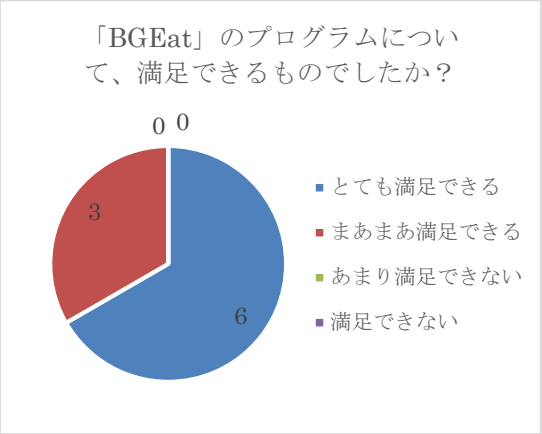


ふるさとへの愛着度を調査したところ、23 人中 21 人が「とても好き」と回答した。その一方で、「ふるさとについて学んだことがあるか」という問いに対して、約 4 割が「ない」と回答。ふるさとについて学ぶ機会を提供することによって、より郷土愛の醸成に繋げることができるのではないかと考える。

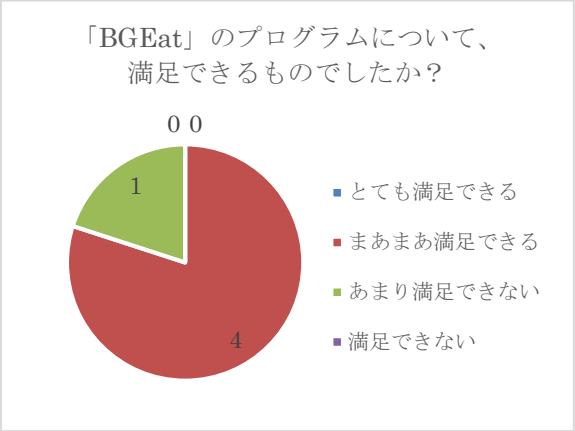
■プログラムの満足度

①今回のイベントは満足できるものだったか

○上松町

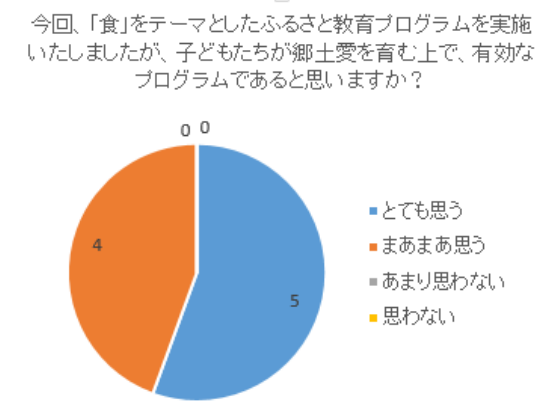


○中津川市

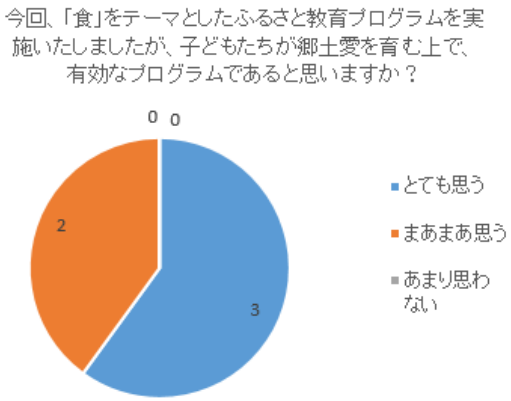


①プログラムの有効性

○上松町



○中津川市

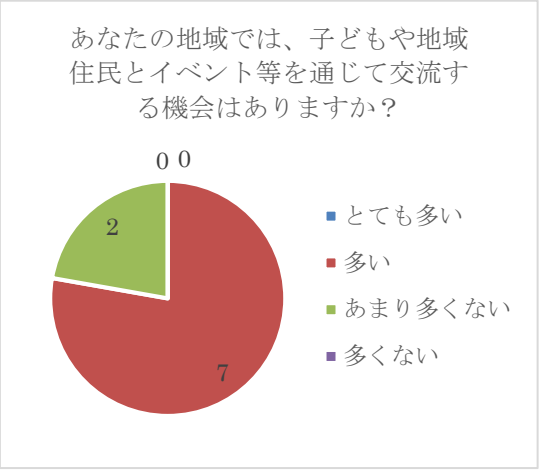


プログラムの満足度および有効性についてアンケート調査したところ、満足度および有効性ともに高い結果となった。

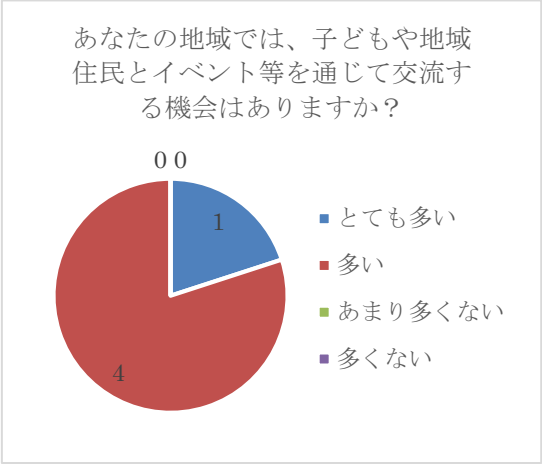
■地域間交流について

①イベント等を通じた地域交流の機会はあるか

○上松町

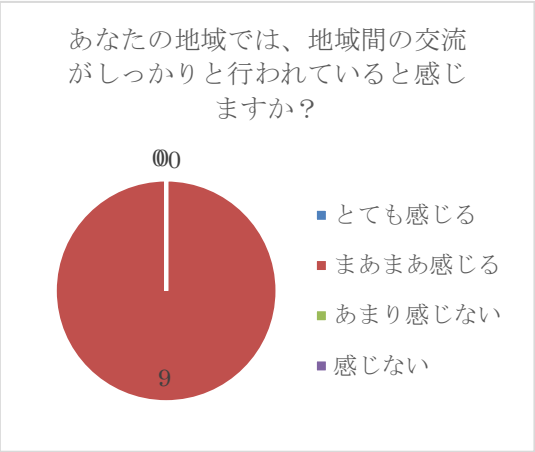


○中津川市

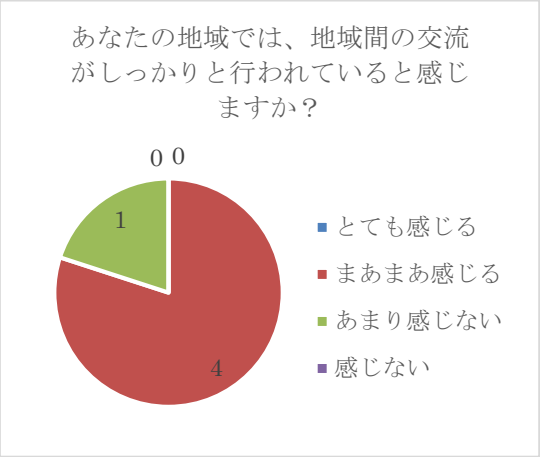


②地域間交流はしっかりと行われていると感じるか

○上松町



○中津川市

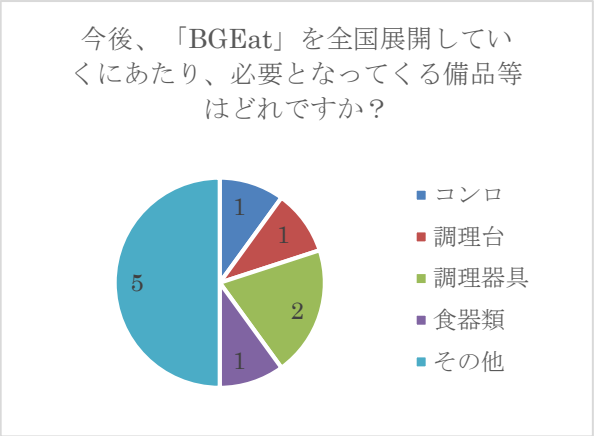


「地域間交流」についてアンケート調査したところ、「イベント等を通じた交流機会」は「多い」という回答が一番多かった。また、「地域間交流はしっかりと行われているか」という質問に対しては、「まあまあ感じる」と回答した人が多かった。

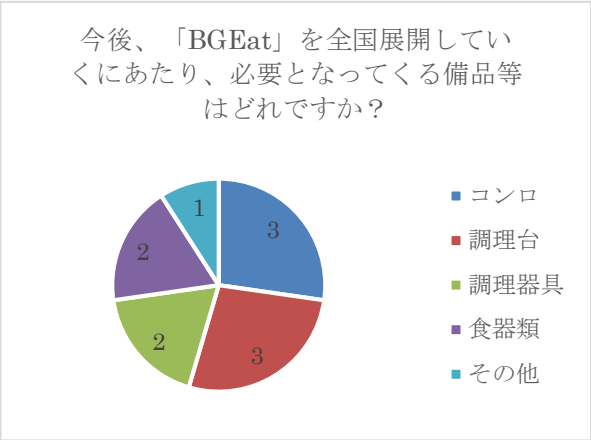
（３）海洋センターへの展開について

①海洋センターで実施する際に必要な備品等は何か

○上松町



○中津川市



※「その他」の回答について

・エプロン、三角巾

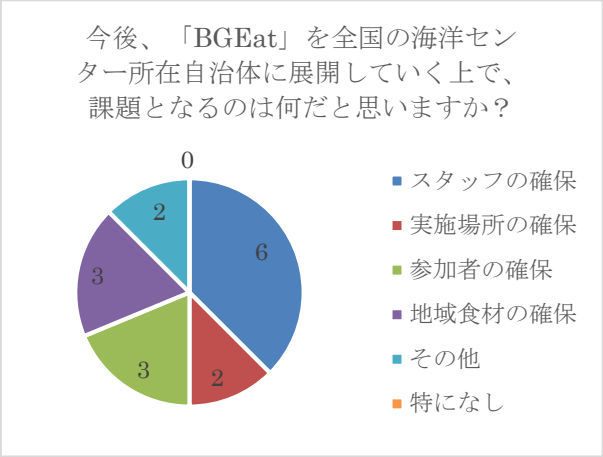
・学習スペース

・PC、プロジェクタ、スクリーン

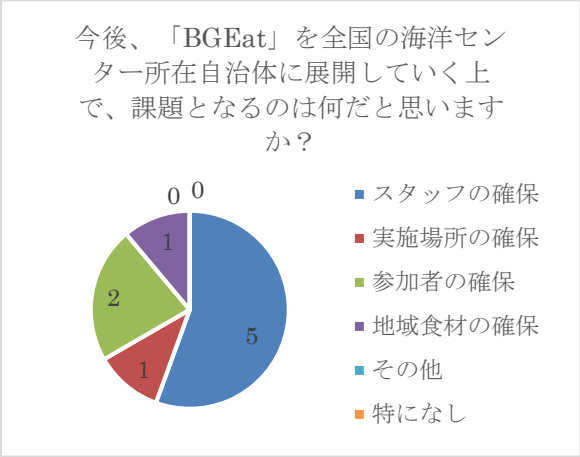
・施設のバリアフリー化

②海洋センターに展開していく上での課題は何か

○上松町



○中津川市



「地域人材・食材を活用した青少年の健全育成に関する調査研究」を海洋センターに展開していくにあたり、必要となる備品や課題等を調査。課題では、「スタッフの確保」が両自治体とも一番多く回答されており、地域人材の活用は同事業を展開していく上で、重要な点であるといえる。

８．成果・課題等

パイロット事業の実施およびアンケート調査、担当者等へのヒアリングを通じて、「食」をテーマとしたプログラム内容が子どもたちの郷土愛を育む上で有効であることが把握できた。実際に食材を見て、調理して学ぶといった「体験」と「学習」の要素を取り入れたことによって、より効果的なプログラムになったといえる。

一方で課題としては、高齢者等の地域人材がボランティアとして参画しづらい内容となっている点が挙げられる。特に食をテーマとした「ふるさと教育」や「食育」は、専門知識を有した方が必要となるため、誰でも参画できる内容ではない。他分野のふるさと学習（例えば伝統文化など）での講師役など、テーマを広げていくことでより参画しやすくなるのではないかと感じた。

また、定期的に開催するためには、調理場を有した施設が必要となる。今回は、公民館で開催をしたが、海洋センターで実施するとなった場合、それらを設置するためのハード面の整備等が必要となってくる。

９．今後の方向性

今回の調査研究を通じて、「食」を通じた青少年健全育成事業は有効なプログラムであることがわかった。一方で、ハード面での整備や地域人材の活用方法など、課題も多い。また、既に自治体では地域間交流イベントも多く実施しており、地域での交流も図れているというアンケート結果も出ている。そのため、今後、B&G 財団が現在取り組んでいる他事業の中で展開していくことも含め、引き続き検討していきたい。

３.「海洋センターオンライン化促進」に係る調査研究事業

（１）調査目的

コロナ禍において、急速にオンライン会議やオンライン講座が普及しているが、Ｂ＆Ｇ財団が2020年８月に全海洋センターを対象に実施した調査では、海洋センターの77%が海洋センター内でオンライン会議ができないと回答しており、海洋センターのネット環境の整備は進んでいない。海洋センターにおいて、オンライン会議やオンライン講座を実施することで、海洋センター利用者の満足度や活動がどう変化するか、また先進事例の調査等を行い、広く効果を周知していくことで、インターネット環境の充実を促進することを目的とする。

（２）調査仮説

海洋センターのオンライン化は、市役所や役場等のオンライン化に比べ遅れており、オンライン化による事業展開の可能性が認識されていない状況にある。

①録画講座ではなく、リアルタイム双方向型講座であれば、講師と参加者がやりとりしながら実施できるため、高い満足感につながる。また、その内容についても、プログラムの組み立て方法や、呼びかけなどを工夫することで、より高い満足感が得られる。

②海洋センターと地元の福祉施設等をつないだ「オンライン講座」を実施することで、海洋センターのサービス範囲をより広域にすることができる。

③リアル講座とオンライン講座の相乗効果により、新たな活動が生まれ、海洋センター活動の充実と継続につながる。

①～③の成果や調査結果を収集し、自治体執行部へ周知することで、海洋センターのオンライン化促進に繋げることができる、ことを仮説に調査を行う。

※2020年度は①を検証し、②③については2021年度検証することとする。

（３）調査内容

①2020年度

a. Ｂ＆Ｇ財団がリアルタイム型オンライン講座を配信。モニターとなった海洋センター利用者に受講いただき、利用者及びスタッフに対し、満足度やプログラム内容についてのアンケート及びヒアリング調査を行う。

b. 海洋センターから地域の施設等へオンライン講座を配信。参加者及び施設スタッフ等にヒアリング調査を行う。

c. オンライン化に係る設備や器材、費用等のヒアリング調査

②2021年度

a. オンライン化先進事例の収集

b.海洋センターオンライン化の効果を自治体執行部へ周知した上で、市町村長に対し、オンライン化の意識調査を実施

（４）調査期間

2021 年 2 月～2021 年 9 月（予定）

（５）実施内容

①内容

a.Ｂ＆Ｇ財団財団から配信する講座を海洋センターにて実施

b.海洋センターから福祉施設等への講座の配信

c.アンケート及びヒアリング調査

（６）パイロット事業の概要

■実施海洋センター

①長野県生坂村海洋センター

②広島県東広島市安芸津海洋センター

③島根県雲南市加茂海洋センター

④熊本県玉名市岱明海洋センター

（７）パイロット事業の詳細

4ヵ所の海洋センターにおいて、約60分間の双方向でのやりとりを行う「オンライン体操講座」を行い、アンケート調査及びヒアリングを行った。講座内容については、コロナ禍でもあるため、ウォーミングアップとして軽い体操、懐かしい音楽に合わせての体操など、負荷の軽く楽しめる内容とした。

①広島県東広島市

日程：2021年3月5日（金）14：00～15：00

場所：東広島市安芸津海洋センター

参加者：19人

②島根県雲南市

日程：2021年3月8日（月）14：45～15：45

場所：雲南市加茂海洋センター

参加者：9人

③熊本県玉名市

日程：2021年3月18日（木）10：00～11：00

場所：熊本県玉名市岱明海洋センター

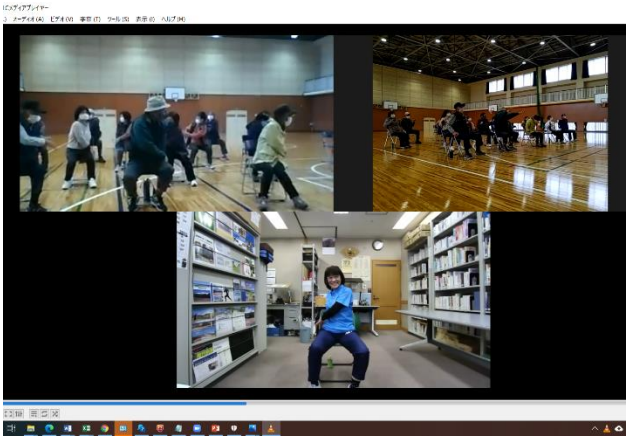
参加者：13人

④長野県生坂村

日程：2021年3月29日（月）14：00～15：00

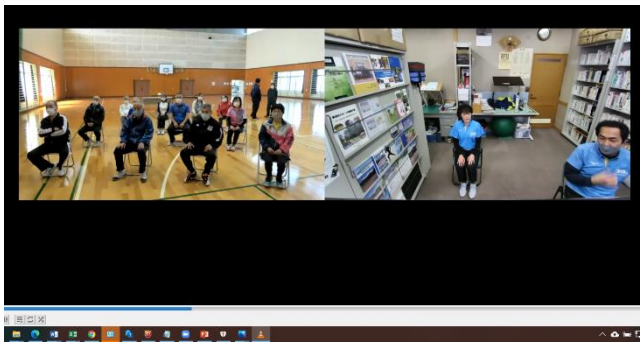
場所：生坂村海洋センター

参加者：9人



広島県東広島市安芸津海洋センターの様子。家庭用 wi-fi 利用の為、動きが固まる時があった。

島根県雲南市加茂海洋センターの様子。通信環境は整備されていたが、会場の音声が拾えるとよいとの声が講師からあがった。



熊本県玉名市岱明海洋センターの様子。三脚を使ってビデオカメラを設置する方法をとったため、参加者全員が画面内に収まり、講師は全員の動きを確認しながら実施ができた。

長野県生坂村海洋センターの様子。スケッチブックを使うなど、小道具を使って、より伝わりやすい伝達を試みた。

（8）アンケート調査

①対象者及び数

年　代	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計(人)
30 代				2	2
40 代	0	0	1	1	2
50 代	0	1	0	0	1
60 代	4	4	2	1	11
70 代	10	0	9	5	24
80 代	1	0	1	0	2
合計	15	5	13	9	42

問１　本日のオンライン講座を受講した満足度を教えください。

満足度	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
とても満足	5	0	5	4	14(33%)
満足	9	4	6	4	23(55%)
普通	1	1	2	1	5(12%)
不満	0	0	0	0	0

問２　本日のオンライン講座の受講時間について教えてください。

時間	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
長い	0	0	0	1	1(2%)
ちょうどいい	14	5	13	8	40(96%)
短い	1	0	0	0	1(2%)

問３　本日のオンライン講座の「映像」について教えてください。

映像について	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
見やすかった	0	1	8	6	15(36%)
普通	11	2	4	2	19(45%)
見づらかった	4	0	1	1	6(14%)
その他	0	2	0	0	2(5%)

問４　本日のオンライン講座の「音声」について教えてください。

音声について	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
聞きやすかった	0	4	3	5	12(29%)
普通	11	1	8	2	22(54%)
聞きづらかった	3	0	2	2	7(17%)
その他	0	0	0	0	0(0%)

問５　本日のオンライン講座のプログラム内容について教えてください。

プログラム内容	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
丁度よい	11	3	13	9	36(86%)
もっと簡単なほうがいい	1	0	0	0	1(2%)
もっと難しい方がいい	3	2	0	0	5(12%)
その他	0	0	0	0	0(0%)

問６　普段対面式で行っている運動教室と比べて感じたことを教えてください。

対面式の運動教室と比べて	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
時間が短く感じた	8	2	6	4	20
同じ	7	1	4	5	17
時間が長く感じた	0	1	0	3	4
満足度が高く感じた	6	3	6	5	20
同じ	8	1	4	7	20
満足度が低く感じた	1	0	0	0	1
親しみを感じた	10	3	9	9	31
同じ	5	1	1	0	7
親しみを感じなかった	0	0	0	1	1
新鮮味があった	11	3	8	1	23
同じ	4	0	2	0	6
新鮮味はなかった	0	1	0	9	10

※一部未回答あり。

問７　過去にオンラインの運動講座を受けたことがありますか

オンライン運動教室の受講経験	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
ある	2	1	0	0	3(7%)
ない	13	4	13	9	39(93%)

問８　あなたが海洋センターに来る主な交通手段は何ですか。（一つに○）

交通手段	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
徒歩	0	0	0	3	3
自転車	1	1	1	0	3
バス	0	0	1	0	1
バイク	0	0	0	0	0
自分で運転する車	11	4	10	6	31
自分以外が運転する車(同乗)	3	0	1	0	4
その他	0	0	0	0	0

問１０　機材があるなしに関わらず、オンライン講座を「自宅」で受講してみたいですか

自宅で受講してみたいか	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
受講してみたい	8	1	4	5	18(45%)
受講したくない	1	0	2	1	4(10%)
どちらともいえない	6	4	5	3	18(45%)

問１０-２　１と回答した方にお尋ねします。ご自宅にパソコンなど通信機器はありますか。

(1 と回答した方)自宅の通信環境	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
ある	4	2	4	4	14(61%)
ない	4	0	3	2	9(39%)

問 11　あなたが受講してみたいオンライン講座を教えてください。

受講してみたいオンライン講座	安芸津	雲南	岱明	生坂村	合計
運動量の少ない体操･健康教室	8	3	4	6	21
運動量の多い体操･健康教室	6	3	3	4	16
ダンス教室	2	0	0	2	4
卓球やバレーボールなどのスポーツ教室	3	2	4	0	9
俳句や楽器演奏など音楽的教室	3	1	1	1	6
歌唱や楽器遠藤など音楽的教室	5	0	2	1	8
オリンピック選手など有名人が講師のスポーツ教室	5	0	1	2	8
その他	0	0	0	0	0
受講してみたいオンライン講座はない	0	0	3	1	4

参加者の感想

・楽しく受講できて、また、来たい。
・手軽な内容で、普段できそうなので続けたい。
・リハビリとは違った良い刺激になりよかった。
・ふだん使わない筋肉もゆっくり伸ばせて、いいストレッチ体操になりました。

スタッフの感想

■機材面

・通信が不安定な時があり、素早い動作の運動は難しいかも。
・画面の大きさもかえられないため、細かい手などの動き、素早い動きなどは分からない。
・プロジェクター投影の場合、会場を暗くせざるをえいないので、大型モニターがあれば会場を明るくできてありがたい。

■プログラム内容

・プールを利用する高齢者が多いため、プールでのプログラム提供があるとよい。
・参加者への感想だけでなく、質問などできる時間があると良い。

・音楽を流しながら体操を行っている際、途中講師の方が動作についての説明をしていたように見えたが声が音楽にかき消されてしまっていた。

■その他

・初めてオンライン講座だったが、スムーズに開催できてよかった。文化教室をオンラインで開催してみたいと感じた。また、総合型地域スポーツクラブのヨガ教室をオンラインとリアルで開催し、参加者が好きな方法を選択して参加できる教室を開催してみたいと思った。現在開催しているほとんどの教室の講師は市外からお願いしているので、今回の教室のように講師だけオンライン、参加者はリアルで開催してもいいと思った。

（９）調査仮設の検証

双方向型のオンライン講座は高い満足感が得られる。今回のオンライン講座は、リアルタイムの双方向型で行い、満足度は、「大変満足」及び「満足」が88%と非常に高い数値となった。

■オンラインに適した講師の指導

オンラインの特質を活かし、講師は参加者へ呼びかける方法を工夫した。具体的には、普段の指導よりもかなりのオーバーアクションをとること、音声が聞き取りにくいことも想定しスケッチブックを使うこと、細かい動作は画面からは見えにくいのでカメラによってできるだけアップで写すことを行った。

また、一方向ではなく、参加者に感想を聞くなど、双方向のやりとりを心がけ、録画ではなく高い満足感につながった。

■オンラインに適したプログラム内容

実施時間も60分間とっていたため、オンライン講座としては、長く感じるか懸念があったが、「ちょうどよい」が96%となっており、参加者満足度の高さがうかがえる。

プログラム内容については、BG財団紹介⇒講師の紹介⇒椅子に座ってできるストレッチ⇒椅子に座ってできる頭と体を使う体操⇒懐かしい音楽にのって体を動かす体操⇒感想・集合写真⇒アンケートという内容になっており、場面に変化を持たせたこと、体操はできるだけ単純な動きにしたこと、音楽を使って聴覚も楽しめる内容とした。今後受けたい講座としても「運動量の少ない体操・健康教室」が50%（21人/42人）を占めており、あまり激しい運動ではなく、運動量の少なく楽しめることに主眼を置いた内容の方が、オンライン講座としてのニーズもあり、適していると感じた。

■必要機材やオンライン環境の整備について

今回、パソコンのカメラ、ＷＥＢカメラ、４Ｋのビデオカメラの４種類を使って実施したが、特に画像については大きな差は見られなかった。但し、ビデオカメラであれば、三脚で高い位置からも撮影できるので、全体を移すことができる利点があることが分かった。

また、WEB環境については、東広島市安芸津海洋センターは事務所に家庭用wi-fi機を設置して使っており、当日の講座の最中も映像が固まってしまうことがあった。事務所に家庭用の小型wi-fi機を設置して使用している海洋センターに対しては、体育館やミーティングルームで快適にオンライン講座を実施するためには、ネット環境の改善が求

められる。

(10) 今後の方針

今回のパイロット実施において、満足度の高いオンライン講座を実施することができた。特に、普段接している講師でない先生に教えてもらえることは新鮮味があっていいという声が多かった。この新鮮味や満足度は、海洋センターの事業への継続参加へと繋げることができ、住民の健康づくりや地域の活性化につながる。

2021年度は、B&G財団が発信するオンライン体操教室の他にも、海洋センターが発信する講座なども展開し、海洋センターをオンライン化することで拓ける多様な可能性を集め発信していくことで、海洋センターのオンライン化を促進していく。

以　上